

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470500315		
法人名	社会福祉法人キングス・ガーデン宮城		
事業所名	星谷ランチ	ユニット名	
所在地	宮城県気仙沼市岩月星谷16-3		
自己評価作成日	平成22年 3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・最後までその人らしく暮らして貰うため、「自分で考えた、決めた、やった」を出来るように援助している。 ・入居者の意向をなるべくその場で解決できるよう柔軟な対応を心がけている。 ・職員が楽しくないことは入居者も楽しくない、と思い職員も楽しんで援助できるようにしている。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成22年4月15日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは、気仙沼市南部の国道45号線から西へ入ってすぐのところにある。前年まで課題としていた運営推進会議の開催や家族への入居者生活状況の報告、災害訓練を実施することなどに取り組んだ。より良いケアの実践に積極的に取り組まれたことがうかがえる。2003年開所以降初めての管理者異動が本年(2010年)行なわれ、これまでに培われた歴史に新たな積み重ねが期待できる。のどかで豊かな自然の中で家庭的な雰囲気と入居前のライフスタイルを継続できるケアを自慢とする職員の意気込みに、理念(入居者自身が行動を選択し達成感を味わう)の実践を期待したい。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 星谷ランチ)「ユニット名」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念のもと、「暮らし楽しく、心豊かに」を実現すべく、「いつまでもその人らしく」と「自分で考えた、決めた、やった」をモットーに取り組んでいる。ミーティング等でもこれを基に考えており、職員へも浸透している。	法人の理念を軸にして、開設当時に作られたホーム独自の理念がある。年度の初めにミーティングを通じて「その人らしく・断ち切らず」地域生活の継続を支援し、理念は日々のケアの基本であることを確認しあっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所と日常的に交流している。職員も円滑な関係を築けるよう、挨拶等には留意している。自治会には参加しておらず、今後の協力関係のため、関係構築を行いたい。	ホーム主催の夏祭りに地域住民を招待したことがきっかけで住民が遊びに来るようになった。近くの幼稚園園庭で遊ぶ園児を見て入居者は和んでいる。隣人が畑で収穫したものをいただくこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の講演会の講師役を行ったりしているが、別な形で地域貢献を模索している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、さまざまな意見をもらい、提供するサービスに取りいれりしている。	今年度ようやく開催することができた。メンバーはホーム関係者の他に入居者と家族の各代表、隣人、地域包括センター職員で構成されている。衛生管理や事業計画について提言・助言が活発に行なわれていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	協力関係は十分に取れていると思う。	市は津波警報時の情報提供や事後報告を求めたり、訪問することもある。また、ホームへの苦情を経由して受け付けるなど、情報を共有するよう心掛けており市との連携ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個人の尊厳を守る事を含め、身体拘束をしないよう努めている。	マニュアルによる内部研修を行っているが拘束の弊害や拘束の具体例について職員は漠然とした理解であった。入居者の外出傾向は把握しており、出たくて落ち着かない入居者には同行して散歩をするなど拘束のないケアの工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待をしてはいけないことを職員は十分理解している。また研修会やミーティングで話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加等で理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特別な機会は設けてはいないが、来所時に声がけをしたり、何でも言いやすい雰囲気を作っている。	家族の来所時にお茶を出したり、見送りすることで意見の表出しやすい雰囲気を作っている。家族宅を訪問した際に聞くこともある。洗髪要望や膝痛を家族から聞くこともある。外部(市担当課)窓口も利用されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より管理者は職員の意見提案を極力取り上げるようにしている。職員も気軽に自分の意見提案を行っている。	ミーティングでは何でも言える雰囲気である。行事に必要な物品購入などの要望は所長を通じて法人に上げられ検討される。ケアに対する意見交換も自由に行なわれ反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生なども年々充実させ、また休暇の取得推進に努め、快適な職場環境づくりに努めている。個々の職員に合わせ向上心をもてるような働きがけがもっと必要かもしれない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格の習得を援助したり、研修の機会を設け個々のスキルアップに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者クラスでは交流があり、職員同士の交流は研修等で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問したり、ホームに遊びに来てもらったりして馴染みの関係を作れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に訪問し、十分な説明を行い、不安を解消することに努めている。またいつでも電話で相談できる旨も伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族やケアマネージャーと連携を密に取りサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も利用者に癒されるような関係でサービスできるよう、大きな輪の中の一員の意識を持ってサービスしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に支えて貰うことを十分に説明し、状況を適切に報告しながら共に支えて貰っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで利用していた商店や理髪店を利用したり、友人の訪問を家族にお願いしている。	釣りが趣味の入居者と釣り場を見に行ったり、生け花の先生をしていた入居者と生け花展を見に行く等、馴染みが途切れないように工夫している。また、食材の買い物は入居者に馴染みのある店を選んでいく。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者相互に良い関係が築けるように努めているが、ままならない部分もある。孤立しないように職員が間に入ったりして対応しているが、もっと良い関係を築けるよう努力したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設等へ退所された方には面会に行ったりしている。1~2年ぐらいは家族へ季節の挨拶等で連絡を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人中心のケアを心がけ、介護する側の理屈にならないように気をつけている。	入居者の表情や顔色でそのときの気持ちや思いを推察している。入居者の環境調査を参考にして個々の好きなことを把握し会話に活かすようにしている。現在、意思表示が困難な入居者は居ない。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りや会話等で把握し、ケアに反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを行い把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	他の専門職や家族と相談しながら作成している。入所期間が長期にわたる方などは、家族からの意見が少なくなってきたように感じるので、共に介護する事を再確認し、いろいろ引き出せるようにしたい。	特にモニタリングの機会を設けていないが、申し送り時やミーティングで発言された職員の意見や医師の助言を元に計画作成者が計画を作成している。入居前に関わった介護支援専門員から助言を聞くこともある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	適切に状況が把握できるよう記録している。もう少し効率的な記録方法を模索中である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	気軽に出かけたり、希望や興味を聞きながら突発的にイベントを行ったり、法人が他にも多くの事業を運営しているので連携を取りながらサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	関係する公共サービスと連携を取っている。身近な地域ともしっかり連携が必要かと思われる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までの主治医を継続している。また協力医との連携を家族に理解してもらっている。	協力医療機関は急変時対応で連携しているので、入居にあたってはすべての入居者にここで受診してもらう。入居前からのかかりつけ医を受診することもできるが、主治医を協力医療機関に変更する家族も多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し健康管理に努めている。また法人内の看護師にも相談、援助をもらっている。もう少し看護師の専門性を活かしたケアを提供したいと考えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームだけに限らず、法人全体を通じ医療機関との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を作成し説明している。	「重度化した場合における対応に関する指針」がある。内容は入居者が入院した際に執るホーム側の方針や重度化した際に話し合うこととする等の記載がある。対応できるケアについて職員同士で話したことはある。意思確認書はない。	ホームの「指針」では、重度化した際にどのような対応が成されるのかが分からない。ホームが行なう具体的な対応方針を定め、状況の変化に応じて医師も交えて話し合い、段階的な合意が得られるようにして頂きたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練等を行い習得に努めている。また個々の疾病等を十分に理解し、危険予測等で対応力を養っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練等を行い習得に努めている。ご近所の方には協力をもらっているが、自治会等とも連携を深めて行きたい。	開所以来課題としていた防災訓練を昨年(2009年)5月に通常総合訓練として行なった。スプリンクラーの設置については法人に一任しており、予算の見通しが立っていない。必要性は感じている。	夜間を想定した訓練の実施もして頂きたい。近所や町内会との協力体制についても具体的な構想が必要と思われる。火災報知器や自動通報システムの設置も早急に検討して頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳の重要性を職員は理解し取り組んでいると思う。	入居者の環境調査や入居前に関わっていたケアマネージャーの意見を参考にして、一人ひとりに合った呼び方をしている。トイレ誘導はトイレを言葉にするのではなく行動を誘発して場所に導くなどの工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「自分で考えた、決めた、やった」を実践できるよう取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今日出来なくても明日がある、と本人のペースに併せサービスを提供できるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時等は着飾ったり化粧をしたりしているが、日常でももっと気をつかった装いを提供で器量にしたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理はお母さん役の入居者も増え、腕を振るって貰っている。食事は落ち着いて楽しんで貰えるように意識している。	入居者の好みや疾患を把握して、職員が献立を作成している。広告を見て食べたいものなどを話題に取り上げ、職員と一緒に買い物に行っている。食卓を一緒に囲み、入居者から会話を引き出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を使い把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けで歯磨き、うがいを行って貰っている。出来るときに行うことを意識して行い、以前に比べ回数・時間等も適切に提供が出来ようになった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表等で排泄の状況を把握し、快適に過ごせるよう援助している。	入居者の落ち着かない様子や雰囲気などで排泄を察知し、誘導している。入居者によってはトイレサインを出すようになった。円滑な排泄の促しに運動を取り入れるなどしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々にあわせ便秘予防・解消に努めている。改善してきている方もいるが、もっと取り組みを深める方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂は必要に応じて何時でも沸かしている。本人が入りたくなるような環境を作り入浴して貰っている。	入居者の希望があれば、毎日でも入浴することができる。入浴しながら入居者にはゆっくり会話をしたり、翌日に外出することなどを話して入居者に合わせて工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	チェック表等で睡眠、休息を把握すると共に落ち着いて眠れるように援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	極力自分で飲んで貰えるよう援助している。服薬状況はチェック表で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員ではないが、役割等で効果がでている利用者が増えてきた。また、小さなことからコツコツ積み上げていくことも再確認して取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	思い立ったが吉日と思い、なるべくタイムリーに外出等を提供できるようにしている。また利用者個々の想いを把握し、効果のある外出に取り組んでいる。	日々の中で散歩や買い物に出掛けている。法人のリフト車両を利用して、歩行困難な入居者は車椅子を用いて出掛ける。天旗祭り、港祭りなど地元の祭りを見物するのは入居者の大きな楽しみとなっている。家族と同行しての墓参りや里帰りもしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々でお金を使う機会が少ない。今一度見直し、それぞれの楽しみの中、失敗しないようなお金を使う機会を検討したい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はこちらからかけることは少ない。希望があれば提供しているが、日常的に活用することも考えたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	失敗しない環境を心がけている。季節を感じられるような工夫も大事にしている。	居室の識別などで入居者の混乱を招かないように大きく表示するなど配慮している。共用スペースは温度、湿度ともに快適に保たれている。夏は風鈴、すだれなどで季節感を出し、ちぎり絵の共同制作作品などは季節の行事に因んだものを選び飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつも試行錯誤し提供している。今まであまり活用できていなかった居室でのやすらぎが徐々に出来てきている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族にも協力して貰い、極力馴染んだ物を持ってきて貰っている。また写真等も持ち込んでもらえるようお願いしている。	居室内の掃除は入居者自身が職員と一緒にしている。神棚、植物、ソファなど入居者の馴染みの物を好きなように配置している。ハサミなどの危険物は避けるよう特段の留意をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	随時、個々のレベルに合わせ混乱が無いような環境づくりを行っている。		